

機内食あれこれ

大津 隆文

半世紀も前海外へ出かけ始めた頃、飛行機に乗ること自体に感激したが、機内食にも胸躍る思いがした。初めて経験した時は、小さなパックになった塩やコシヨウを記念にそと持ち帰ったりした。有名エアラインの機内食を提供する食堂も話題になった。海外旅行の日常化に伴い魅力は少し薄れたが、最近是一段と工夫が凝らされ美味しくなっていると聞く。

シンガポールから来た娘の話では、事前に申し込めば今や機内食は十七種類から選べるとのこと。その多さに驚いたが、宗教面では、ヒンズー教、イスラム教、ジャイナ教等に対応して四種類、ベジタリアン向けに、厳格なものからゆるいものまで四種類、健康や嗜好に応じ、低塩分、低カロリー、シーフード、フルーツ中心など九種類。豊かさとは宛てがい扶持ではなく選択の余地が大きいことと思うが、機内食についてとはいえ、本当に豊かな世の中になったものだ。

通常、乗客は機上で提示される二種類から選ぶ。日本の飛行機だと洋食系と和食系ということが多い。

随分前だが、団体ツアーの帰国便である騒ぎがあった。前の席の方から食事が配られてきたが、途中で和食が品切れになったのだ。団体客は割引運賃で後方の席にまとめられるのでやむを得ないと思ったが、突然女性の泣き声が上がった。「和食を食べるのを楽しみに日本の飛行機に乗ったのにひどいではないか」と。その騒ぎがどう収まったかは覚えていない。

覚えてるのは自分が「お客様の声」に投書したことである。趣旨は、会社は事前に乗客の国籍、年齢、旅行のタイプ等の情報が入っている筈だから、食事の需要予測をもう少し正確に出来ないか、ということであった。

しばらくして会社から返答が届いた。ご意見ありがとうございました、今後の参考にさせていただきます、という味も素っ気もない葉書の印刷文であった。本当にがっかりした。お客様の声に耳を傾けます、というのは全くポーズだけとよく分かった。

その会社は程なく経営破綻した。